



神戸市会議員



岡田ゆうじ

自由民主党神戸市会議員団市政報告

2021.11

No.36

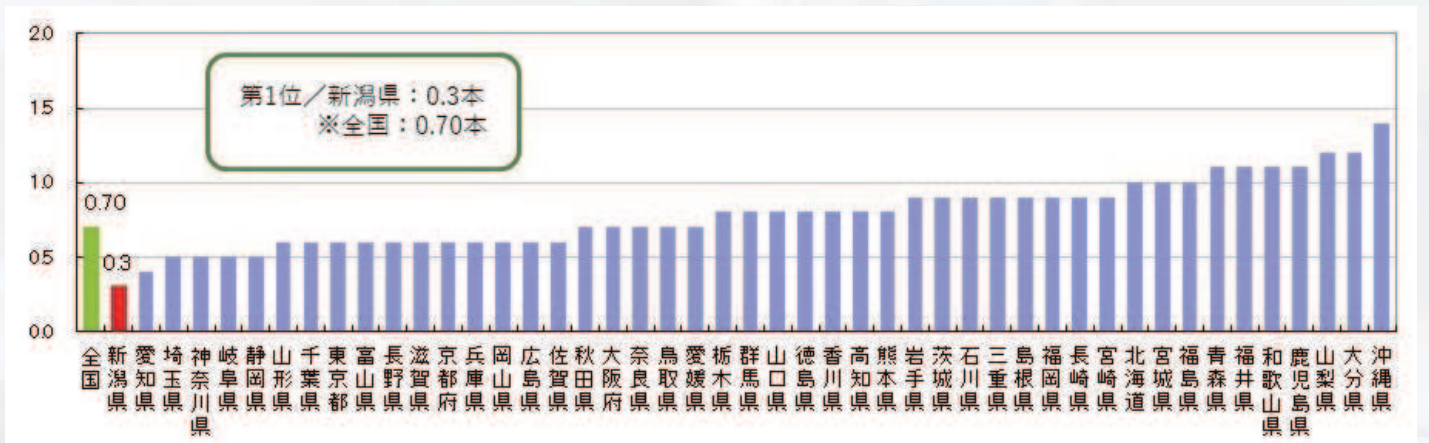
フッ化物洗口

幼少期のフッ化物洗口（うがい）には大人になってからのむし歯予防にも効果があります。

日本初の小学校フッ化物洗口を実施した新潟県弥彦村で、50年の節目に成人のむし歯調査をしたところ、小学校でフッ化物洗口を経験した人は、大人になってもむし歯が少ないという結果が出ました。弥彦村の影響を受け、全県的にフッ化物洗口に取り組んだ新潟県は、ここ20年以上ずっと、全国で最も虫歯が少ない県として知られています。

大人になってからの喪失歯数で比較しても、フッ化物洗口してなかった人の30歳時点での喪失歯数は0.74。一方でフッ化物洗口していた人の喪失歯はゼロ。

全身の健康は口腔内から、とも言われますが、神戸市でも小学校でのフッ化物洗口事業を早期に開始する必要があります。現在市内4校でモデル事業を行っていますが、歯科医師会とも協力しながら、教育委員会を促し、全市的な小学生のフッ化物洗口事業の開始に、微力を尽くして参ります。



令和元年度都道府県別 12歳児一人平均むし歯数 (本) ※文部科学省学校保健統計調査より

フッ化物洗口事業の早期導入を

○分科員（岡田ゆうじ） 全国で一番虫歯が少ない県はどこでしょうと、歯医者さんに聞いたら、大体、ぱっと答えられるんです。答えは新潟県です。何と云って、ここ20年ぐらい、ずっと断トツの1位です。

47都道府県の棒グラフにすると、新潟だけ虫歯数が少ない。何故かといったら、新潟県の弥彦村というところで、日本で初めてフッ化物洗口事業をスタートさせたからです。

当時は、まだ1970年代の高度成長期ですから、全国で公害がうたわれてたときなんですね。メチル水銀の公害とか、いろんな公害がうたわれてた中で、口の中にフッ素を塗るなんていうのはね、「そんなことしたら、子供たち公害にかかっちゃうんじゃないか」といって反対の声もあったんです。

だけど、当時の弥彦村の住民は「そんなことない」と。「海外の知見を見ても、フッ化物でちゃんとうがい・洗口を続けていけば虫歯がなくなるんです」と。そういうコンセンサスがあったんでしょうね。今、半世紀近くたって、その成果がしっかりと出てきました。

具体的には、小児科のフッ化物洗口が成人期にもたらす効果ということでの実証調査でありますけども、全くしてなかった頃の、大人になってからの平均虫歯本数というのは11.67本、だけどフッ化物洗口してたら、3.91本、虫歯が4分の1なんですね。じゃあ、喪失歯数、要は歯がなくなっちゃった、大人になって歯がなくなっちゃった件数というところ、フッ化物洗口してなかったところは0.74、小・中とフッ化物洗口をやっていた人たちは、喪失歯はゼロ。この劇的な効果を得て、全国でフッ素洗口を学校現場で、そして地域で進めていこうというトレンドがあります。

神戸市でも再三にわたり、この種の要望をされているわけですが、なかなか実現には至っておりません。やっぱりフッ化物洗口というのは、安くできて、そして経済効果がものすごい大きいもんだということは、今、国中で言われているわけですが。神戸市もぜひ、このフッ化物洗口事業、教育委員会の協力も必要でありますけども、取り組んでいただきたいと思うわけですが、見解をお伺いします。

○神戸市健康局担当部長 本市では、教育委員会、教職員、こちらの負担を軽減しながら小学校におけるフッ化物利用モデルの事業に取り組んでございます。

令和2年度につきましては、コロナウイルスの感染症の影響もございましたので、神戸市の歯科医師会等と具体的な方法検討を重ねてございまして、フッ化物利用モデルを4校選定して取組を進めてございます。

令和3年9月には、保護者説明会をする予定で考えてございましたけれども、8月20日に緊急事態宣言、こちらの影響を受けまして、現在延期という形にはなっております。ただ、コロナウイルスの影響も踏まえながら、引き続き市の歯科医師会の協力も求めながら、フッ化物利用モデル事業について、何とか2学期中の実施を目指して、教育委員会とともに進めてまいりたいと考えてございます。

